

講義名	財務戦略論		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	小笠原 宏		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2時限		
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2014年度 サービス産業学部 観光学科 / 2014年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2014年度 商学部 商学科 / 2013年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2013年度 サービス産業学部 観光学科 / 2013年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2013年度 商学部 商学科 / 2012年度 サービス産業学部 サービスマネジメント		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		講義コード	12031

主題と概要

企業経営における財務管理の重要性を理解し、その基礎理論の理解と習得をめざす。財務戦略構築上、考察すべき重要な2つの側面は、資本の調達と運用である。その両面でバランスのとれた効率的なマネジメントが重要である。与えられた情報を最大限に利用し、定量的な客観性と論理的整合性を重視した財務アプローチをもって複数投資案件の取捨選択や、資金調達を考えた総合的な財務戦略の立案、遂行を行い、同時にその結果を合理的に評価分析する手法を学ぶ。そして実践力の向上までも目指す。本講座で取り上げるアプローチは財務以外の分析でも広く応用が可能である。講義内容は、いわば米国経営大学院の必修科目の内容をベースに、受講対象を学部生向けに集約、調整した内容を考えている。財務理論の実践的応用として事業経営全般における「戦略」的発想部分を特に重視したい。

到達目標

基本的な経営管理能力のうち、戦略構築能力、分析能力の醸成。企業価値、プロジェクト価値など算定能力、知識の習得。多様な角度からのものごとを分析し考察能力の実践と向上

提出課題

授業進度、理解度に応じて実施の可能性有(1回程度)

評価の基準

基本的に15回講義のうち、80%以上の出席回数が最終試験受験資格。評価配分の【目安】として試験得点50% + 業参加度30%程度 + 提出課題(レポート)20%提出課題がない場合は、試験70% + 授業貢献度30% 授業貢献度とは、授業中の質疑、課題説明などへの参加を評価するものである。

履修にあたっての注意・助言他

基本的に講義形式。取り上げる主要項目は別項のようなものを考えており、履修者のレベル、理解度に応じ調整する。財務的な定量分析アプローチで現実問題どう議論していくかという説明をめざしている。通り一遍のテキスト的な講義でなく、その時点でのホットイシューにも言及しながら、実践的応用の視点からの考察を加えたい。経営財務に関する初学者向け基礎文献を任意で1冊通読することを推奨。本に書いてあることを改めて繰り返し説明するような授業ではない。板書ファイル、音声ファイルをブログを通じて公開するのでそれを元に復習、試験対策を推奨。

教科書

特に指定しない。

プリント資料及び参考文献

「証券化の基本と仕組みがよ〜わかる本」小笠原 宏著(秀和システム2004) 「ビジネス・ゼミナール経営財務入門」井出正介・高橋文郎著(日本経済新聞社2004) 「コーポレートファイナンス」(第8版)<上・下>R.フリーリー/S.マイヤーズ著 藤井真理子・国枝繁樹監訳(日経BP社2006) 「基礎からのコーポレートファイナンス」(第2版)古川浩一他著(中央経済社2001) 「すらすら読めて興までわかるコーポレートファイナンス」内田交謙:著(創成社2004) 「基礎からのコーポレートファイナンス(第2版)」古川浩一他著(中央経済社2001) 「DCF企業分析と価値評価」(第2版)土井秀生著(東洋経済新報社2003)など。 プリント資料などは、随意作成し、授業内にて必要に応じて配布予定。

授業計画

1-2財務諸表の見方と使い方。(経営情報としての財務諸表の使い方。比率分析、伝統的財務分析概説)
3-5運転資本管理(WC) キャッシュ・フロー概念
6-7 価値創造の経営戦略(VBM) 営業CFとFCF
8-10 投資案件選択問題。リスク調整の考え方等
11-13 加重平均資本コストと株価決定
14-15 最適資本構成と企業価値評価
そのほかに、戦略的経営思考法を適宜解説する。時節柄タイムリーな話題をその都度取り上げていく。双方向での授業内外での受講者とのやり取りも活用して内容調整をする予定。

予習・復習

ブログを開設しており、そこから授業ログ(板書及び音声)がダウンロードできるようにしている。それらを基に、自分用の講義ノート(試験対策用で持ち込み可)を作成すること。疑問や不明点は、出欠票(毎回配布)の裏面に記入したり、ブログに書き込みをしたりすること。(授業内で必要度に応じて解説するつもり。) ブログのurlは授業開始時に教える。受け身型の授業聴講姿勢からの脱皮を期待する。

備考